

【路線名：市道駅前観音線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
1	Calm上天満	西区上天満町8番地3、8番地4	店舗、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.33 Is/Is0=0.55 Ctu・SD=0.32			耐震診断の結果(詳細):RC部分 Is0=0.60 X方向 5階 Is=0.72 Ctu・SD=0.70 4階 Is=0.53 Ctu・SD=0.52 3階 Is=0.36 Ctu・SD=0.36 2階 Is=0.36 Ctu・SD=0.36 1階 Is=0.33 Ctu・SD=0.32 Y方向 5階 Is=1.43 Ctu・SD=1.39 4階 Is=0.85 Ctu・SD=0.83 3階 Is=0.64 Ctu・SD=0.62 2階 Is=1.19 Ctu・SD=1.16 1階 Is=1.16 Ctu・SD=1.14
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.36 q=1.46			耐震診断の結果(詳細):S部分 Is0=0.60 X方向 1階 Is=0.38 q=1.55 Y方向 1階 Is=0.36 q=1.46
2	メゾン瀬川	西区中広町一丁目18-22、18-7、18-8	共同住宅、事務所	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.36 Is/Is0=0.60 Ctu・SD=0.43			耐震診断の結果(詳細):共同住宅棟 Is0=0.60 X方向 5階 Is=1.16 Ctu・SD=1.11 4階 Is=0.71 Ctu・SD=0.68 3階 Is=0.56 Ctu・SD=0.53 2階 Is=0.36 Ctu・SD=0.43 1階 Is=0.47 Ctu・SD=0.45 Y方向 5階 Is=1.84 Ctu・SD=1.76 4階 Is=1.02 Ctu・SD=0.97 3階 Is=0.92 Ctu・SD=0.88 2階 Is=0.75 Ctu・SD=0.72 1階 Is=0.74 Ctu・SD=0.71
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.12 q=0.52			耐震診断の結果(詳細):事務所棟(西) Is0=0.60 X方向 2階 Is=0.42 q=1.69 1階 Is=0.12 q=0.52 Y方向 2階 Is=0.93 q=3.74 1階 Is=0.18 q=0.79
				別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.36 q=1.49			耐震診断の結果(詳細):事務所棟(東) Is0=0.60 X方向 1階 Is=0.64 q=2.60 Y方向 1階 Is=0.36 q=1.49
3	メイゾン・ド・中広	西区中広町一丁目3番地11	飲食店、駐車場、ダンススタジオ、事務所、共同住宅	別表2(3-2) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	Is=0.03 q=0.10			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 塔屋4階 Is=0.30 q=0.62 塔屋3階 Is=0.73 q=0.89 塔屋2階 Is=0.70 q=0.85 塔屋1階 Is=0.06 q=0.25 9階 Is=0.71 q=1.44 8階 Is=0.30 q=0.61 7階 Is=0.24 q=0.47 6階 Is=0.33 q=0.55 5階 Is=0.29 q=0.48 4階 Is=0.27 q=0.46 3階 Is=0.44 q=0.74 2階 Is=0.39 q=0.66 1階 Is=0.10 q=0.35 Y方向 塔屋4階 Is=0.23 q=0.51 塔屋3階 Is=0.16 q=0.38 塔屋2階 Is=0.28 q=0.61 塔屋1階 Is=0.15 q=0.33 9階 Is=0.34 q=1.17 8階 Is=0.19 q=0.65 7階 Is=0.22 q=0.74 6階 Is=0.18 q=0.61 5階 Is=0.15 q=0.52 4階 Is=0.13 q=0.43 3階 Is=0.13 q=0.44 2階 Is=0.12 q=0.40 1階 Is=0.03 q=0.10

【路線名：市道駅前観音線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
4	オリンピアビル	西区西観音町15番地8	店舗、事務所、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=0.67 Is/Is0=0.93			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72 X方向 塔屋階 Is= 0.67 Y方向 塔屋階 Is= 0.68
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.14 Is/Is0=0.25 Ctu・SD=0.14			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 5階 Is= 0.55 Ctu・SD= 0.58 4階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.14 3階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.22 2階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.17 1階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.21 Y方向 5階 Is= 0.59 Ctu・SD= 0.63 4階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.35 3階 Is= 0.18 Ctu・SD= 0.23 2階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.28 1階 Is= 0.14 Ctu・SD= 0.17
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版) ただし、地下階は「第1次診断法」	Is=0.80 Is/Is0=1.11			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72 X方向 地下階 Is= 0.80 Y方向 地下階 Is= 2.12
5	中村ビル	西区上天満町4番2	事務所、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=0.59 Is/Is0=0.81			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.72 X方向 塔屋階 Is= 0.59 Y方向 塔屋階 Is= 1.31
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2017年版)	Is=0.15 Is/Is0=0.27 Ctu・SD=0.20			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.54 X方向 6階 Is= 0.20 Ctu・SD= 0.22 5階 Is= 0.57 Ctu・SD= 0.59 4階 Is= 0.45 Ctu・SD= 0.47 3階 Is= 0.50 Ctu・SD= 0.52 2階 Is= 0.32 Ctu・SD= 0.34 1階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.21 Y方向 地下階 Is= 0.15 Ctu・SD= 0.20 6階 Is= 0.51 Ctu・SD= 0.54 5階 Is= 0.37 Ctu・SD= 0.39 4階 Is= 0.23 Ctu・SD= 0.31 3階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.29 2階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.34 1階 Is= 0.30 Ctu・SD= 0.32 地下階 Is= 0.27 Ctu・SD= 0.29
6	中広町市街地住宅 (市営中広アパート)	西区中広町一丁目18番16	共同住宅、店舗	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.24 Is/Is0=0.44 Ctu・SD=0.31			10~15階、塔屋階 Is0=0.54
				別表2(5-5) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1997年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.38 Is/Is0=0.703 Ctu・SD=0.30			地下1~地上9階 Is0=0.54

【路線名：市道駅前観音線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
7	田中ビル	西区上天満町4番地3	店舗、事務所、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.35 Is/Is0=0.64 Ctu・SD=0.24			耐震診断の結果(詳細):西棟 Iso=0.54 X方向 5階 Is=1.21 Ctu・SD=1.28 4階 Is=1.26 Ctu・SD=1.32 3階 Is=1.02 Ctu・SD=1.07 2階 Is=0.87 Ctu・SD=0.91 1階 Is=0.35 Ctu・SD=0.24 Y方向 5階 Is=0.91 Ctu・SD=0.96 4階 Is=0.43 Ctu・SD=0.45 3階 Is=0.39 Ctu・SD=0.41 2階 Is=0.36 Ctu・SD=0.38 1階 Is=0.43 Ctu・SD=0.30
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.34 Is/Is0=0.62 Ctu・SD=0.63			耐震診断の結果(詳細):東棟 Iso=0.54 X方向 塔屋階 Is=0.50 Ctu・SD=0.99 5階 Is=0.46 Ctu・SD=0.82 4階 Is=0.36 Ctu・SD=0.95 3階 Is=0.34 Ctu・SD=0.95 2階 Is=0.43 Ctu・SD=0.95 1階 Is=0.42 Ctu・SD=0.95 Y方向 塔屋階 Is=2.14 Ctu・SD=1.00 5階 Is=2.06 Ctu・SD=0.95 4階 Is=1.41 Ctu・SD=0.95 3階 Is=1.18 Ctu・SD=0.95 2階 Is=0.72 Ctu・SD=0.79 1階 Is=0.44 Ctu・SD=0.63
8	広タクビル	西区西観音町15番1号、15番2号	事務所、駐車場、倉庫	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) ただし、塔屋2階、塔屋1階は「第1次診断法」	Is=0.38 Is/Is0=0.47			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.80 X方向 塔屋2階 Is=1.27 塔屋1階 Is=1.05 Y方向 塔屋2階 Is=1.17 塔屋1階 Is=0.38
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.21 Is/Is0=0.38 Ctu・SD=0.22			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.54 X方向 7階 Is=0.29 Ctu・SD=0.30 6階 Is=0.29 Ctu・SD=0.31 5階 Is=0.21 Ctu・SD=0.23 4階 Is=0.21 Ctu・SD=0.22 3階 Is=0.21 Ctu・SD=0.22 2階 Is=0.36 Ctu・SD=0.38 1階 Is=0.80 Ctu・SD=0.84 Y方向 7階 Is=0.37 Ctu・SD=0.39 6階 Is=0.33 Ctu・SD=0.35 5階 Is=0.26 Ctu・SD=0.27 4階 Is=0.28 Ctu・SD=0.29 3階 Is=0.26 Ctu・SD=0.28 2階 Is=0.35 Ctu・SD=0.37 1階 Is=0.50 Ctu・SD=0.52
9	光ハイツ	西区南観音町8番地10	共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) ただし、塔屋階は「第1次診断法」	Is=1.56 Is/Is0=1.95			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.80 X方向 塔屋階 Is=1.65 Y方向 塔屋階 Is=1.56
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.24 Is/Is0=0.40 Ctu・SD=0.30			耐震診断の結果(詳細) Iso=0.60 X方向 5階 Is=2.34 Ctu・SD=2.30 4階 Is=1.06 Ctu・SD=1.30 3階 Is=0.53 Ctu・SD=0.65 2階 Is=0.45 Ctu・SD=0.57 1階 Is=0.33 Ctu・SD=0.41 地下階 Is=0.24 Ctu・SD=0.30 Y方向 5階 Is=0.52 Ctu・SD=0.65 4階 Is=0.59 Ctu・SD=0.73 3階 Is=0.39 Ctu・SD=0.49 2階 Is=0.33 Ctu・SD=0.41 1階 Is=0.31 Ctu・SD=0.40 地下階 Is=0.38 Ctu・SD=1.40

【路線名：市道駅前観音線】

番号	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の状況		備考
						内容	実施時期	
10	天満町アパート岩崎ビル	西区天満町6番地7、8、9、10、11、12、19、20、21	店舗、共同住宅	別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版) ただし、塔屋2階、塔屋1階は「第一次診断法」	Is=0.55 Is/Is0=0.68			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.80 X方向 塔屋2階 Is= 2.37 塔屋1階 Is= 0.55 Y方向 塔屋2階 Is= 2.31 塔屋1階 Is= 0.76
				別表2(5-3) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is=0.19 Is/Is0=0.31 Ctu・SD=0.26			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 11階 Is= 0.33 Ctu・SD= 0.46 10階 Is= 0.28 Ctu・SD= 0.39 9階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.35 8階 Is= 0.23 Ctu・SD= 0.32 7階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.31 6階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.27 5階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.26 4階 Is= 0.19 Ctu・SD= 0.28 Y方向 11階 Is= 0.55 Ctu・SD= 0.76 10階 Is= 0.41 Ctu・SD= 0.57 9階 Is= 0.34 Ctu・SD= 0.48 8階 Is= 0.31 Ctu・SD= 0.43 7階 Is= 0.28 Ctu・SD= 0.39 6階 Is= 0.23 Ctu・SD= 0.33 5階 Is= 0.22 Ctu・SD= 0.31 4階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.31
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合	Is=0.17 Is/Is0=0.28 Ctu・SD=0.19			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.60 X方向 3階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.30 2階 Is= 0.17 Ctu・SD= 0.19 1階 Is= 0.25 Ctu・SD= 0.28 Y方向 3階 Is= 0.21 Ctu・SD= 0.30 2階 Is= 0.26 Ctu・SD= 0.29 1階 Is= 0.36 Ctu・SD= 0.40
				別表2(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2009年版) 鉄骨が充腹材の場合 ただし、地下階は「第一次診断法」のみ	Is=0.88 Is/Is0=1.1			耐震診断の結果(詳細) Is0=0.80 X方向 地下階 Is= 0.88 Y方向 地下階 Is= 1.30

耐震診断の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価(抜粋)

別表2

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性			
		I	II	III	
		I. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	II. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	III. 地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。	
(3-2)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$	
(4-1)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	—	—	$1.0 \leq I_s / I_{so}$	
(5-3)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版、2017年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$	
(5-4)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1983年版)	$I_g / I_{g0} < 0.5$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_g / I_{g0}$	
(5-5)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
(5-6)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
		鉄骨が非充腹材の場合	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot SD < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot SD$
(6)	一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	$Q_u / \alpha \cdot Q_{un} < 0.5$	$0.5 \leq Q_u / \alpha \cdot Q_{un} < 1.0$	$1.0 \leq Q_u / \alpha \cdot Q_{un}$ かつGIS<1.0	
				$1.0 \leq GIS$	

※別表1、2の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性については震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※別表2に掲げる耐震診断の方法のうち、(4-1)から(5-6)、(11)、(12)の方法における安全性の区分については、補正係数(表中のU及びI_{so}を算出する際に用いるU)を1.0とした場合を示している。